

コロナ時代における”食”生活、タイプ別おすすめ事例

2021年2月1日

2020年度上半期における飲食店事業者の倒産は392件と、上半期としては過去最多を記録（帝国データバンク調べ）。忘年会など年末需要の消失、緊急事態宣言による営業時間の短縮など飲食業界では先行きの見えない状況が続いている。

そんな中、厳しい経営環境にある飲食店や卸業者を支援する活動も広がっている。様々な活動について、3つのタイプ別に紹介する。コロナ渦で変化した日常に役立つ情報があれば、ぜひ活用してほしい。それでは、あなたはどのタイプでしょうか？

タイプ1：ステイホームで食事作りに目覚めた！

タイプ2：自炊の回数が増え、食事作りに疲れた…！

タイプ3：行きつけのお店・思い出のお店など、ご縁のある飲食店を応援したい！

タイプ1：ステイホームを機に食事作りに目覚めた！

そんなあなたは、「滞留している食材を生産者から取り寄せよう」

食材を生産者から直接購入できるウェブサイトの整備が進んでいる。コロナの影響を受けている方々を応援する特集もあり、生産者・消費者が直接つながることで応援にもつながる。

・ **ポケマル** (<https://poke-m.com/>)

生産者と交流できるコミュニティ機能があり、生産者・消費者がつながる仕組みが構築されている。手作りキットセットなどもある。

・ **食べチョク** (<https://www.tabechoku.com/>)

生産者について丁寧に説明されている。オンライン料理教室がセットになった商品などもある。

・ **JA タウン ニッポンの農家応援プロジェクト** (<https://www.ja-town.com/shop/e/ejaouen/>)

コロナの影響を受け、在庫の滞留や売上げの減少などが顕著な食材の販売支援。各地の農協と連携して運営されている。

タイプ2：自炊の回数が増え、食事作りに疲れた…！

そんなあなたは、「テイクアウト・デリバリーを活用しよう」

自宅や今いる場所から簡単にテイクアウトやデリバリーのお店を探せるサービスが整備されている。レストランの味を自宅で楽しめるサービスも始まっている。

・自治体ごとのテイクアウト支援・まとめ情報を活用する

・「エール飯」プロジェクトに参加する

一部の自治体では、テイクアウトできるお店をまとめた独自サイトを運営している。また、「#〇〇エール飯（〇〇には自治体名が入る）」というハッシュタグを利用してテイクアウト情報を市民が発信する”エール飯”プロジェクトも広がっている。テイクアウトを検索・利用した後は「エール飯」プロジェクトに参加するのも支援につながる。

・Oisix おうちレストラン

(https://www.oisix.com/shop_gift2—Wsc1-restaurant-support_html.htm)

パンケーキからしゃぶしゃぶ、焼き鳥のお店などから、お店と同じ食材とレシピが届く。簡単な調理で済むように工夫されているものも多く、名店の味を手軽に楽しめる。

3. 行きつけのお店・思い出のお店など、ご縁のある飲食店を応援したい！

そんなあなたは、「先払いチケットやクラウドファンディングを」

・さきめし (<https://www.sakimeshi.com/>)

「今はいけないけれど、コロナが落ち着いたら食べに行く」取り組みで、お店の代金を先払いできる仕組み。後日食べに行った際にチケットの利用ができる。2021年1月時点で登録店舗数は14,000店、流通総額は4.8億円を超えている。

・未来の食券

こちらスマホでお店の食券を購入し、一年以内に利用できるサービス。熊本県にある会社が運営しており、長崎県との連携の実績もある。

・クラウドファンディング

必要な資金をクラウドファンディングを利用して調達する飲食店の取り組みも増えている。知っているお店が実施しているとは限らないが、お店にこのような方法があることを伝えたり、常連同士に支援を呼びかけるなどできる行動は様々ありそうだ。

ここで挙げたものはほんの一例にすぎない。ほかにも様々なサービスや支援活動が存在している。コロナ渦において日常生活の影響は大きいですが、日々を支える食生活において、自分に合った無理のないかたちで楽しみながらできることの参考になれば幸いである。